

競 技 注 意 事 項

- この大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則、及び本大会の規定により審判する。
※競技規則 TR5.2 に適合しないシューズの使用は認めない。ただし、フィールド競技用シューズについては TR5.2 の適用を除外する。
- 招集について
 - 招集場は、本部ダッグアウトの上段に設ける。
 - 種目別の招集開始時刻および招集完了時刻は、プログラムの競技日程欄に記載されている。
 - 招集の手順
 - 出場選手は、招集場に掲示した実施種目の一覧表を確認し、記載事項に誤りがあれば競技者係にその旨を伝える。
 - 招集開始時刻までに招集場で待機し、本人が点呼を受ける。その際に、アスリートビブスとスパイクのチェックを受け、トラック競技（リレーを除く）のうち、800m までの決勝種目では別アスリートビブスを、1500m 以上の種目では別アスリートビブスと別腰ナンバーを受け取ること。
 - 点呼の代理は認めない。但し、同一時刻に2種目以上出場する者は、必ず事前（第1種目の招集完了時刻まで）に招集場で競技者係から多種目同時出場届を受け取り、必要事項を記入のうえ提出し、許可を得ること。その際、招集に来ることができない種目の点呼（アスリートビブス、腰ナンバー、スパイクシューズ等の点検）を受けておくこと。
 - 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場の意志がないものとして処理する。
- トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の上から下へとする。
- リレーのオーダー用紙は、招集場で競技者係から受け取り、必要事項を正しく記入し、招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出する。
- 棒高跳用ポールは各自が持参のものを使用し、投てき用具は競技場のものを使用する。但し、ハンマー・やりは数が少ないので、各校より持ち寄るものとするが、その際の用具については、競技開始時刻の1時間前に本部横で検査を行う。
- 競技場で使用するスパイクピンの長さは9mm以下の全天候型ピンを使用すること。但し、やり投と走高跳は12mm以下の全天候型ピンとする。先端の尖ったニードルピン等は走路を傷めるため禁止する。
- 練習については、補助競技場が付設されていないため、競技に支障をきたさない範囲で競技場内での練習を認める。但し、投てき練習は一切禁止する。
- 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次のとおりとするが、練習の高さや開始の高さについては、選手の実情に応じて設定する。

走高跳	男子	練習（1m20）	1m75 までは5cmきざみ	1m78 から3cmきざみ
	女子	練習（1m00）	1m45 までは5cmきざみ	1m48 から3cmきざみ
棒高跳	男子・女子	練習（ ）	2m00 から10cmきざみ	

※ 順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。